

かの 葛野の鐘

図書館報 第11号



京都光華女子大学図書館
2004.4発行
(<http://www.koka.ac.jp/toshokan/>)

(題字は元暦校本萬葉集より集字)



閲覧室が変わります

2階閲覧室にリラックスルームができました。
3階閲覧室にグループ閲覧室が増えました。
フレッツ・スポットサービスを開始します。
図書館内で自分のノートパソコンが利用できます。



速読のこと

図書館長 平 川 泰 司

ここ何年か速読についての記事をよく目にする。速読のできない私など、無駄に時間を浪費しているとか、頭の使い方が悪いとかいわれると、もっと速く読まなければという脅迫観念に捉われて、何時間で何ページ読んだか、気になって仕方がないというようなことになってしまう。しかし、下手な読み方というのは確かにあると思うが、速読については私は大きな疑念をもっている。

ある人が、自分はどんな本でも1時間に300ページだったか400ページだったか読めると豪語しているのを見たことがある。しかし、例えばダンテの『神曲』を本当に1,2時間で読めるのだろうか。無数の歴史上の人物や『聖書』に登場する人物などが出てきて、私など詳しい註釈がなければ手も足も出ない。それに『神曲』や『聖書』なども読み飛ばして、一体何の意味があるのだろうか。それこそ時間の浪費ではないのか。

また、文章をきちんと読むのは愚の骨頂だとして、斜めに読むとか、ひどいものになると各段

落の最初だけを読むのを勧めているのもある。人から聞いた話だが、ある研究者など索引を見て当該の箇所だけに目を通すのだそうだ。私にはこれはとても恐ろしいことに思える。例えば「自由」といっても人によって全く意味していることが違うことがありうるし、語の定義やニュアンスあるいは文脈などを無視した理解など危険極まりない。

交響曲の各楽章の出出しだけを聴いたり、美術館の中を早足で通り過ぎたりしても、音楽や美術を味わったことにはならないであろう。同様に文学作品もじっくりと通読しなければ読んだ意味がないと思う。音楽や美術と同じように、まず味読して読むこと自体を楽しむのだ。浅薄な教訓だけを読み取るなどというのは、それこそ愚の骨頂である。評論や研究書などでも読むに値する書物は、味読してこそ豊かな実りを手に入れることができる。株で儲けるこつの指南書など、もちろん斜め読みで十分だろうが。

(文学部 英語英米文学科・英文学)



本探しの楽しみ

人間関係学部 人間関係学科 ^{いし} ^{たに}
石 谷 みつる

私は幼少時より田舎にしては本がたくさんある家で育ったためか、暇さえあれば何かを読んでいる。最も好きなのは外国の長編推理小説である。この好みにはたぶん母の好みも影響していると思う。

小学校時代は木造2階建ての小さな学校で過ごした。そこで私は初めて図書館というものを利用するようになったのだが、やはり当時も推理物をよく借りて読んでいた。小学生向けのコナン・ドイルは全て読み尽くした。社会人となった今では好きな本を気軽に買って読むという贅沢をしているが、当時はもちろんそんな贅沢はできなかった。ましてや我が家は山の麓の本屋が一軒もない地域にあったので、小学生の小さな私にとって学校の図書館は大変ありがたいものであった。古い木造校舎の少し薄暗い図書館。現在その母校は鉄筋コンクリートの近代的な建物に取って代わられ

ているが、私にとっての図書館とは、「木造で薄暗くなんとなくあやしい雰囲気なたたえているもの」というイメージが強い。

現在は図書館も情報化が進み本探しもスピーディに行えるようになった。大変ありがたいことである。それでも時代遅れの私は、少なくとも趣味の本に関しては、やはり書棚で手にとって中身を確かめた上で読みたいと思う。

本探しには出会いの楽しみがある。幼少時に図書館にあやしい雰囲気を感じたのは、おそらく「何と出会うかわからない」という一種の期待感からきていたのだろう。そして今では、我が子のために絵本を探すという新たな出会いの機会を得ている。幼い子どもたちも本好きの片鱗をすでに見せ始めており、親としてもまた一層本探しに楽しみになってきた。(臨床心理学)



私の図書館

短期大学部 生活情報専攻 ^{あい} ^ば ^{ひろ} ^{かず}
相 場 浩 和

学生時代は瓜生山の麓に下宿していた。その日読む一冊の本だけを手にとり下宿を出ると、まず観電元田中に向かう。目的の喫茶店は、駅前建物の2階だ。階段を上り扉を開けると広いフロアが目に入る。4人掛けの低いテーブルが窮屈すぎず、まばらすぎず絶妙の配置だ。全体の配色は白で統一されており、それが店の名前の由来にもなっている。フロアの一角には巨大スクリーンが据え付けられている。しかしボリュームは適切にしばられており、ほどよい音だ。簡単に空いたテーブルを見つけると、クッションのよく効いた奥行きのあるイスに深く腰を下ろす。コーヒーを注文するとさっそく本を取り、昨日の続きを読み出す。すぐさま没頭する。ふと気づくと友人の姿があった。いつもの事だ。「よう」「おう」的確に挨拶を済ませると、彼は遠慮なく前のイスに座り自分の本を読み始める。

会話はそれっきりだ。あたりを見回す。そこは決して図書室代わりの喫茶店ではなく多様な客がいる。小一時間すると友人は「じゃ」とこれまた簡潔な挨拶を残して行った。少々疲れた私は備え付けの『ガラスの仮面』を手取る。何度読み返したかしのれない。そしていつものようについ熱中してしまう。「いかん」とまたもとの本に戻る。...気づくと窓の外はもう暗い。「さて大学に顔を出すか。」ようやくその喫茶店を後にする。

今ふりかえるとあれほど心地よく本を読めた場所は他になかったように思う。その喫茶店は確かに図書館ではなかったが、間違いなく最高の読書室だった。が、その喫茶店はもうない。なんということか。

(情報処理概論)

数字で見る図書館の動き

開館状況

年度	開館日	開館日数	入館者	貸出冊数	貸出人数
13	13.4.10 ~ 14.3.19	242	70,470	12,304	6,334
14	14.4.10 ~ 15.3.19	244	69,712	11,444	6,440
15	15.4.10 ~ 15.3.18	233	54,886	12,186	6,451

年間受入冊数(平成15年度)

	和書	洋書	消耗図書	計
購入	3,949	420	1,935	6,304
その他	770	128		898
計	4,719	548	1,935	7,202

蔵書冊数(平成16年3月現在)

	和書	洋書	計
図書	約152,400冊	約26,800冊	約179,200冊

相互利用件数

年度	複写依頼	複写受付	閲覧依頼	閲覧受付
13	129	56	42	26
14	181	515	48	31
15	187	715	38	25

レファレンス件数(カウンター受付)

年度	学内調査のみ	学外への依頼	学外からの依頼
13	131	90	87
14	157	106	100
15	146	67	45

私の薦めるこの一冊



『語り伝えよ、子どもたちにーホロコーストを知るー』(みすず書房2002)

S.ブルッフフェルド/P.A.レヴィーン/中村綾乃著 高田ゆみ子訳 高橋哲哉解説

人間関係学部 社会福祉学科 加納 恵子

私は、「戦争を知らない子どもたち」世代であるが、近頃、この国がきな臭くて仕方がない。福祉に関わる者として、「究極の人権侵害リスト」を生み出す戦争には、どんな大義名分をつけられたって反対だ。さて、こんな時だからこそ、「語り伝えよ、娘たちに」の母心で、本書を薦めたい。これは、ナチスによるユダヤ人虐殺(ホロコースト)について、スウェーデンの学者らが編んだ入門書で、これまでに10カ国150万部が読まれてきた。歴史の風化に衝撃を受けたペション首相が、悲劇を後世に伝えるプロジェクトを提唱し実現したものだ。類書の多い中、この本が広く読まれた理由のひとつに「大虐殺を人々の肉声で再現した」点があげられる。豊富な写真・資料とともにポーランドの小学生クララやソニアの声が聞こえてくる。訳者の高田ゆみ子は、同級生だが、送られてきたメールに

「著者が、私らと同じ戦後世代で、どんな表現するか興味わいてな。ついでに、N.Y.の坂本龍一に頼み込んで、帯の推薦、書いてもろてん。」と、相変わらずのミーハーぶりだが、彼女の良書選択眼の鋭さと訳語の妙には、いつもながら舌を巻く。ところで、私たちの福祉実践は、ある意味で、こうしたナチスのおぞましい仕業と今も闘っていると言っている。優生思想に基づいて、劣性のレッテルを貼った人種や障害者・高齢者を片っ端からガス室へ追いやった悪業は、実は、私たちの地域で、目撃する「子どもや高齢者虐待」、「障害者や外国人排除」の事件、数々の薬害を生み出してきた医療や選別教育・・・と通底してはいまいか。まだまだ、子どもたちに語り伝えたいことがある。(地域福祉論)

316.88 / KATA 2階閲覧室



夏目漱石自筆「断片」

文学部 日本語日本文学科

し みず やす つく
清 水 康 次

この資料は漱石自筆の資料であり、同じものの二つとない原資料である。「漱石山房」の名が入った原稿用紙3枚に、漱石が細字でさまざまなメモを墨書している。平成13年度の本学大学院文学研究科の図書費で、京都の古書店から購入したものである。古書店の目録では、「夏目漱石草稿幅」としているものの漱石自筆である確信が持てなかったのか、相場よりはるかに安い価格が付けられていた。今までの『漱石全集』には収録されていない新出の資料であり、筆跡を鑑定し、詳しく点検して購入。その後、現在『漱石全集』を刊行中の岩波書店に連絡を取り、全集編集室との往復を経て、昨年11月刊行の『漱石全集』第20巻「日記・断片 下」に「新たに見つかった断片」として収録された。当該巻の「後記」には、「京都光華女子大学に所蔵されている」と明記されている。ただ、このメモが何のためのものであるのかはまだ明確ではない。「ヘイマーケット座」「帝国ホテル音楽会」のような見聞に関わるメモがあり、小説の構想のようなメモもあり、さらに「男ノ執念深き事。女ノ執念深き事。」「男冷静女物足らず。男熱烈女ノ苦痛」な

どの警句のような記述もある。墨書のさまざまなかたまりからは、漱石の細心の几帳面さと飛翔するような創造力とがともに匂い立つかのである。本学所蔵の貴重書として誇れる資料であり、研究の対象としてだけではなく、授業などにおいても展覧して、ほんものを目にするという体験学習におおいに役立てていきたい。(近代文学)



自筆断片 916 / NaSo 貴重書書庫
漱石全集 918.68 / NS-1-39 / 20 A書庫

訃報

元文学部 日文 教授で図書館長 平成5~6年度 を務められた小泉道先生が平成15年9月8日にご逝去されました。小泉先生は図書館報の創刊にご尽力いただき、徳風館屋上の梵鐘にちなんで「葛野の鐘」と命名されました。茲に謹んで、お悔やみ申し上げます。



図書館と私

えのき その さやか
人間関係学科 平成12年度卒業 榎 蘭 紗也香



私は一年間図書館で臨時職員として働いていました。大学時代に図書館をあまり利用しなかった私は、働いてすぐなせもって図書館を利用しなかったのだろうと後悔しました。

学生の私にとって図書館は、試験の前や卒論を書く時に利用する場所ではなく、読書でもしようと思っても、本棚を少し見て気に入った図書がないと、諦めて帰ってしまっていました。その時に少しでも蔵書検索をしたり、カウンターに相談に行っていたら、私は図書館をもっと上手に利用できていたのではないのでしょうか。図書館で働くようになり、改めてゆっくり本棚をながめていると、興味のある図書に数多く出会える

ことに気付きました。振り返ってみると、学生時代の私がいかに限られた本棚しか見えていなかったのだろうかと痛感するくらいに…。学生時代に利用しなかった図書館を卒業してから利用する事で、今まで寝ただけだった通勤時間に本を読むようになりました。

私は現在、病院で司書兼事務員として働いています。私が就職できたのも図書館で働いた経験、本への興味、なにより再びこの図書館と出会えたことがきっかけだと思っています。皆さんも図書館に来て一度本棚をゆっくり見てみて下さい。きっと私のように新しい発見や惹かれる本に必ず出会えると思います。

✦ 寄贈図書一覧 (平成15年1月～12月受入)

✦ 寄贈者の50音順 (敬称略)

現旧教職員

飯 沼 万里子

顔をなくした女 他

内 田 次 信

シチリアの千年 他

小 國 英 夫

NTTふれあいトーク大賞100選

奥 野 陽 子

玉葉和歌集 他

可 藤 豊 文

親鸞聖人五ヶ条要文 他

加 藤 實

パキスタン・ガンダーラ彫刻展 他

小 島 啓 邦

蜘蛛の巣の意匠 他

下 川 理 子

マヒが教えてくれたこと

新 宮 一 成

絵とき精神医学の歴史

高 木 英 明

あなたが世界を変える：12歳少女が環境サミットで語った伝説のスピーチ 他

高 橋 あかね

文正物語 他

肥留川 嘉 子

説教と舞曲

藤 田 綾 子

老後保障を学ぶ人のために 他

分 藤 大 翼

アフリカ狩猟採集社会の世界観

百 瀬 正 恒

掘る・読む・あるく本願寺と山科二千年

渡 辺 愛 子

仏典童話 2

卒業生・学園関係者 他

岩 城 秀 親

法界寺壁画 他

村 田 晶 子

フィジーにおけるインド人社会

山 中 ちあき

現代絵画の断面 他

平成14年12月8日にご逝去されました岩崎卓先生(日本語日本文学科)のご家族のご厚意により、日本語学関係を中心とした多くの資料ご寄贈いただきました。

図書の詳細はOPACで調べることができます。1階光華コーナーにも現旧教職員の寄贈図書があります。

この他に、学外の方からも多数の図書をご寄贈いただきました。改めて御礼申し上げます。



✦ Information ✦

平成15年9月より図書館入館システムを導入しました。入館には利用証(学生証・教職員証・図書館利用証など)が必要です。

非常勤講師の図書館利用証は人事部発行のカードに変更になります。但し入館及び貸出には図書館での利用登録が必要です。

閲覧室の改修等に伴い、図書の配架が変わりました。2階のNDC分類000番台は1階に移動しました。

著作権の問題により、複写したい図書館資料は所定の用紙に記入する申込制になります。図書館での複写は図書館資料に限られていますので、それ以外の複写については購買部の複写機をご利用ください。

編集後記

ご寄稿くださいました皆様には心より御礼申し上げます。今後ともよろしくお願い致します。